

農林水産大臣賞（被害防止部門（団体））

農事組合法人と自治会で役割分担し、生息数が拡大するシカやイノシシに対応するため、県や市と連携して「朝生地区鳥獣被害対策総合計画」を策定。加えて、大学と連携した科学的な知見に基づく捕獲や「山口型放牧」による生息環境管理の実施、猟友会と連携した捕獲体制の構築を行うなど、地域一体となった対策のモデル地区として、取組の地域内外への普及に貢献。

下関市豊北町大字田耕「朝生地区」

農事組合法人朝生・代表理事組合長：田中 信義
朝生自治会・自治会長：和田 鎮夫

主な取組

山口県下関市

- 野生鳥獣の潜み場となる耕作放棄地解消のため、農事組合法人が不在地主と交渉し、水稻(3.5ha)と小麦(0.95ha)の営農を再開。また、営農再開が難しい耕作放棄地では、電気柵を設置して牛を放牧する「山口型放牧」に挑戦し、雑草管理と潜み場の除去に取り組んでいる。
- 侵入防止柵については、収穫期となる8～10月に農事組合法人が組合員に点検箇所の担当を割り振るとともに、自治会の会員約20名により、年2回、全侵入防止柵の見回りと点検・補修に取り組むなど、点検・補修の徹底により、良好な状態を維持。
- 下関市豊北町捕獲隊と協力した捕獲の活動では、自治会が中心となり、定期的なわなの見回りや点検、設置箇所の調整、猟友会との連携による捕獲時の処分を実施。また、山口大学と連携した山林における採餌環境の調査結果に基づく、わなや侵入防止柵の管理により、被害軽減を実現。
- 令和5年度に発生した梅雨前線による豪雨で破損した侵入防止柵等の復旧に当たって、連携している山口大学からボランティアを受け入れるなど、活動の継続に向けた工夫に取り組んでいる。

【被害金額（朝生地区）】

約2,500千円(令和元年度)→ 約1,000千円(令和6年10月末)

※主要被害作物の水稻収穫済の時点